

令和3年度学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）実績報告書

（令和4年1月）

研究代表者氏名（所属・職名）	北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター						
プロジェクトの名称	少人数・遠隔教育の高度化を支援するへき地・小規模校教育プロジェクト						
共同研究者氏名（所属・職名）	●玉井康之（へき地・小規模校教育研究センター長） 川前あゆみ（同副センター長、釧路校・教授） へき地・小規模校教育研究センター運営委員全員						
研究プロジェクトの概要							
<p>本プロジェクトは、都市部以外の学校が小規模校化する中で、遠隔双方向システムを活用しながら、子供たちの社会性を高めたり、教員の研修を進めることを目的とし、そのために必要な遠隔双方向システムの活用方法の在り方について検証するものである。</p> <p>とりわけ第4期中期計画に向けて、「令和の日本型学校教育」に求められるICT遠隔教育の課題や少子化社会に対応した課題を整備しており、へき地・小規模校ならではの遠隔双方向のあり方や、それを経験することによる新しい教員養成教育を推進している。このことは、新しいフラッグシップ構想に向けた大学の戦略的構想につながるものである。</p> <p>これらの全国的動向とフラッグシップに向けた戦略を踏まえ、現在全国および北海道の先進事例を踏まえながら、へき地・小規模校における遠隔双方向教育の在り方や少人数学習指導のあり方について分析している。</p>							
達成度	2	←番号を記入	<table border="0"> <tr> <td>1 計画とおり達成した</td> <td>2 概ね達成した</td> </tr> <tr> <td>3 あまり達成できなかった</td> <td>4 全く達成できなかった</td> </tr> </table>	1 計画とおり達成した	2 概ね達成した	3 あまり達成できなかった	4 全く達成できなかった
1 計画とおり達成した	2 概ね達成した						
3 あまり達成できなかった	4 全く達成できなかった						
研究実績の概要							
<p>令和2年度文部科学省委託「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」により調査を行った徳之島町の5つの学校によるICTを活用した教育実践、宗谷管内中頓別小学校のICT活用の取組等について更に検証し、当該結果を学会発表・日本教育大学協会研究大会発表や現職教員研修で活用した。この成果はさらに前田賢次氏や加藤雅子アドバイザー等がへき研センター紀要『へき地教育研究』に成果を投稿している。</p> <p>ICT活用状況に関しては、全道小中高校を対象にアンケートを取り、その成果を道教委に還元しており、大変喜ばれている。このアンケート調査結果も日本教育大学協会でも報告すると共に、『へき地教育研究』に掲載している。</p> <p>また、北海道立教育研究所との連携により、へき地・小規模校における遠隔合同授業及び当該教育を通じた現職教員の指導力の向上を図るための研修事業を通して学校現場の状況等を把握し、遠隔双方向システムを活用した先進の「へき地・小規模校」における教育実践についての研究に取り組んだ。北海道立教育研究所との研修講座は、今後の道教委と他の協働研修事業の先駆的な取組となるものであり、今後道教委との連携を強化する礎石となっている。</p> <p>ICT活用実践事例としては、北海道積丹町の先進事例調査を行い、へき地校間の遠隔合同授業・交流授業・遠隔集合学習の進め方等を明らかにした。ICT遠隔双方向システムの活用は、へき地校の大きな転換点となるものであり、それらのICT活用調査成果を「へきけんニュース」等で広めている。また北海道教育大学と北海道教育学会との共催で2月19日（土）に公開シンポジウムを開催し、遠隔教育を含めたICT活用実践事例を紹介する予定である。</p>							

連携協定を結んだ全国へき地教育研究連盟とは、全国へき地教育研究大会への参加、本学主催の講演会・シンポジウムにも共催者として協力して頂いている。オンデマンド講座・オンライン講座では、北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター主催の各種事業で全国から200名近く集まるなど、幅広く宣伝活動を推進できている。

以上を踏まえ、本学主催の「丸山文部科学審議官のへき地・小規模校教育推進講演会」（11月5日）及び「第19回へき地・小規模校教育推進フォーラム2021」（11月12日）を開催し成果の普及を図った。参加者アンケートによれば、講演会、フォーラムとも9割を超える参加者から好評を得ている。

また、11/12日フォーラムには中国からの参加者があり、海外からも本学のへき地・小規模校教育に対する高い期待が寄せられていることが分かった。海外国際貢献事業では、中国・オーストラリア・韓国とへき研センターを結ぶ“Rural Education”フォーラムを10月31日に開催した。ラオスからは、一昨年以來へき地複式授業に関する国際貢献を行っていたが、へき研センター発行の『へき地教育の手引』が英語・ラオス語に再編集翻訳され、ラオス全域に配布されることになった。これらのようにへき研センターとしては、北海道教育大学のへき地教育研究成果が全世界に普及されることは、大きな成果があると位置づけている。

更に、へき地・小規模校教育研究センターにおいて、動画教材やへき地教育実習ポスター・へき研センターポスターのチラシを作成し、同センターのホームページにおいて公開した。これにより、学内全体でへき地校体験実習の必要性の意識を高めており、潜在的なニーズを掘り起こすことにつながっている。

今後、継続してICT活用教育先進地としての徳之島町のICT遠隔双方向教育の教育実践を調査し、当該結果を学校教育の現場で活用可能な映像教材にまとめてオンデマンドで配信するとともに、次年度の学会発表・日本教育大学協会研究大会発表や現職教員研修での活用を予定している。

研究成果の公表実績

【著書】

川前あゆみ・玉井康之・二宮信一編著『豊かな心を育むへき地・小規模校教育』第二版、2021、学事出版

【学術論文】

『へき地教育研究』論文には、川前あゆみ他の研究論文の成果が数本出されている。

【学会発表】

・令和3年度日本教育大学協会研究集会第3分科会A、2021年10月20日、ZOOM, 前田賢次、「へき地複式校間のICT活用による双方向遠隔合同授業の成果と課題-徳之島町の5つの学校の取り組み事例から-」、25名。

・令和3年度日本教育大学協会研究集会第3分科会A、2021年10月20日、ZOOM、芳賀均 森健一郎「音楽出前授業の教員養成としての効果とへき地校との遠隔授業」とへき地校との遠隔授業

・令和3年度日本教育大学協会研究集会第3分科会A、2021年10月20日、ZOOM, 玉井康之・前田賢次
・川前あゆみ・小野幸郎、「北海道内小中学校のICT利用実態調査結果とへき地校におけるICT活用の現状と課題」、25名。

【普及啓発イベント、セミナー、研修会等】

・4カ国合同“Rural Education”オンラインセミナー10/31日

・北海道教育学会・北海道教育大学共催「主体的・探究的で協働性を育むICT活用教育の新しいあり方と可能性-実践事例から考える成果と課題」2022年2/19

・2021年全教いぶり教育講演会「今、求められている求めたい教育の間で-新型コロナ下の状況をふまえて-」、2021年9月19日、ZOOM講演、30名。

・R3道研修講座「6：これからのへき地・小規模校教育充実研修【遠隔合同授業】・【講義】遠隔合同授業の実践を通じた指導力の向上、「へき地・小規模教育における遠隔合同授業」、2021年9月10日、ZOOM講演、25名（受講対象教員16名）。

【研究成果の紙媒体、報告書、研修資料等】

https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/public/movie.html

https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/public/fact-finding_report/

【関連URL】